

## ■ 令和5年度 第11回 秋葉区自治協議会

日時：令和6年3月19日（火）午後1時30分

会場：秋葉区役所6階 601・602会議室

### 1 開会

（中島会長）

皆さん、お疲れさまでございます。令和5年度第11回、今年度最後の自治協議会本会議となります。次第に沿って進めてまいります。座ったままで失礼をいたします。

それでは、開会の挨拶、今回は第1部会の若月委員からお願いをいたします。

（若月委員）

それでは、皆様、お疲れさまです。本日も自治協議会お集まりいただき、ありがとうございます。自分もなかなか出席できなかつたりした時期もありますんで、ちょっとそんな偉そうなことを言うのもいかなもんかとは思いますが、ご挨拶としてさせていただきます。

3月中突然寒くなったり、温かくなったりを繰り返して、なかなか体調も何か悪くなったりしやすい時期ではございますが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。私農業ということで外で仕事しているものでして、なかなかそういう天候の影響を受けやすく、結構体調を崩しやすくなっております。そして、花粉症持ちでもございますので、いろんな意味でマスクを手放せない日々を送っております。

そして、今回自治協議会、令和5年度最後ということで、皆様ともご意見、引き続き参加される方、そして今回の会議で退任される方いらっしゃると思いますけども、こうやって様々な役職の方と様々な職業の方々と意見を交わすことができるというのは、自分自身にも、そして周りの人たちにもよりよい刺激になると思いますので、こうやって皆様と共に地域の輪をつくっていければと思います。また、今回も議案のほうありますので、皆様と闊達なご意見を交わせればと思いますので、皆様、本日もよろしくお願ひします。

（中島会長）

若月委員、ありがとうございました。来年度も引き続きよろしくお願ひいたします。

本日は、きらめきサポートプロジェクトの報告ということで、皆さん既にスタンバイしていただいております。今日は、よろしくお願ひいたします。

## 2 報告

### (1) 令和5年度第2回秋葉区自治協議会提案事業検討委員会について

(中島会長)

まず、今年度の自治協議会提案事業の予算に関する件で、議題の1つ目です。「令和5年度第2回秋葉区自治協議会提案事業検討委員会について」、こちら私から報告をさせていただきます。

資料の1を御覧になってください。会議が3月の8日開催いたしました。内容は、別添えのとおりです。一々読み上げませんが、ざっくり申し上げますと、コミュニティ未来ビジョン部会、当初予定していた内容に変更等が生じまして、各部会で経費、また不用額が生じてしまいました。そのため、各部会の予算額の割り振りを変更、調整する内容の報告がありました。これに従いまして、本日各部会から事業評価報告をしてもらいますが、事業評価書には変更後の予算を記載しておりますので、ご了承いただければと思います。会議のほうは、全く一切質問、異議等なく承認されました。

こちらについて、ご質問等ありますか。よろしいでしょうか。

それでは、1つ目、令和5年度第2回秋葉区自治協議会提案事業検討委員会について終わります。

### (2) きらめきサポートプロジェクト活動報告について

(中島会長)

それでは、お待たせいたしました。2です。「きらめきサポートプロジェクト活動報告について」でございます。こちらの報告会につきましては、第1部会会長の加納委員にこの後お任せしたいと思います。

加納部会長、よろしく願いいたします。

(加納委員)

皆さん、こんにちは。今年度もきらめきサポートプロジェクト、5団体の皆さんの採択をさせていただきまして、無事全て終了させていただきました。早々に終わられたところ、つい3月10日に最後の催物も終わりましたので、ご報告させていただきます。今日は、それに伴いまして、各団体の方から順次説明、楽しかった模様とか、いろんな形で発表がありますので、お楽しみいただければと思っております。よろしく願いいたします。皆さん、よろしく願いいたします。

最初の団体の新津中央コミュニティ協議会さんの「秋葉湖周辺案内看板設置事業」となります。お願いいたします。

(新津中央コミュニティ協議会：ナガハシ)

それでは、事業名、秋葉湖周辺案内看板設置事業実施報告をご報告させていただきます。この事業の案件については、建設課、それから自治協の皆さんの全面協力を得て作業を進めさせていただきました。ありがとうございました。

それでは、早速ですので、報告いたします。この事業の提案者であるコバヤシ副会長が今回ご報告する予定でしたけれど、急用ができたためナガハシがご報告させていただきます。よろしく願いいたします。この秋葉山に案内看板を設置する事業の始まりは、当コミ協文化教養部会で平成27年に行った秋葉山をデザインしようというワークショップの中で参加者から発せられた一言でした。ここにもありますけれども、「秋葉山というのは不親切な山なんですね」という発言が発端となって、看板の整備が必要だということのでこの事業は始まりました。不親切な山の実態は言われたとおりです。道の分岐点にしてもほとんど看板が見当たらず、ほかから来た人だけでなく、新津の地元の人でも迷うほどの山です。まさに不親切を実感したものです。この汚名を解消しようと、秋葉湖周辺案内看板設置事業が動き始めました。

今年度設置した案内看板です。これは、秋葉湖周辺案内看板設置図です。その中で、秋葉区から奥の部分にまずキャンプ場が整備されました。そうして、その奥には県内第2のマウンテンバイクパークが新しくできます。そして、さらに奥には昔かなりにぎわっていた熊沢公園があり、ここも近年手入れがなされて、気持ちのいい場所になりました。そして、この部分は小口の部落にも続く道があります。そのことを知ってもらうことを目標としました。これまで案内看板は、合計して20枚設置することができました。この活動を始めて8年の間に、小口コミ協でも同じような考えの下、同様の案内看板が作られました。

次に、今回設置された案内看板を御覧いただきます。今回設置した案内看板の現場写真です。この写真で見るとちょっと小さそうに見えますが、横2メートル、縦1.5メートルあります。案内看板としては十分に目を引くかと思います。場所は手前の森のようちえんから下りてきた丁字路のところ、秋葉の地区から秋葉苑の前を下りてきた秋葉湖に出会う丁字路に来ると目の前に見える案内地図として大いに活躍してくれるものと期待しています。

次に、案内看板を設置した場所の詳細を御覧いただきます。実際に設置した周辺の案内図の一部を拡大してあります。真ん中に白く、真ん中に下から上に延びる赤い矢印の先、白い四角の部分に設置いたしました。温かくなりましたら、秋葉湖駐車場に車を止めて、あるいは山を越えて、この秋葉湖周辺にまで足を伸ばして散策をしてみてください。

特に看板から左のほうへずっと行くと、県下随一のマウンテンバイクパークが出現します。この周辺の変貌には驚かされることと思います。今まで湿地で道もなかったところに新しい道もできて、奥のあずまやまで気持ちよく歩くことができます。

この8年という時間をかけて設置した周辺案内看板や分岐点案内看板のおかげで、「秋葉山って不親切な山ですね」という言葉は返上できるところまで来たのかと自負しています。今後は、看板というハードがそろって・・・きれいになった秋葉山で散策する人たちをどうやって増やすかというソフト部分に力を入れなきゃならないと思っております。

次に、今まで設置した案内看板でございます。これだけ令和4年度設置した案内看板です。それから、これが令和3年度に設置した案内看板。ここは、田家地区も入っております。それから、平成30年度に設置した案内看板です。それから、平成29年度、平成28年度ということで設置をさせていただきました。どうもありがとうございました。

以上で新津中央コミュニティ協議会の秋葉湖周辺案内板設置事業の報告を終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

(加納委員)

中央コミ協さん、ありがとうございました。

皆さん、何かご質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか、次に移らせていただきます。

続きましては、「小須戸まちなか演奏会『町家とお寺と明かりと音楽』」、小須戸コミュニティ協議会さん、お願いいたします。

(小須戸コミュニティ協議会：村井)

皆さん、こんにちは。小須戸コミュニティ協議会のまちなか演奏会担当の村井です。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、これから説明させていただきたいと思います。昨年の10月に実施させていただきましたまちなか演奏会です。4年ぶりということで、大変私どものほうもどうなるか心配だったんですけども、自治協の協力の下実施することができました。毎回やるたびに不安なところは、演奏者の選定というのが一番、どなたから来てもらおうかというのが一番難しいところで、あとは会場の選定、あと③で多くの人に関わってもらうにはどうしたらいいか、④、4年ぶりの開催なので、どのように告知して集客するか、こういうところを自治協のメンバーの方と相談をしながら、今回実施させていただきました。

ワークショップの開催ということで、9月10日にまちなか演奏会の会場を彩る竹灯籠のワークショップを開催させていただきました。子供を含め、延べ20名の参加者がドリ

ルで竹に穴を空け、思い思いのデザインの竹灯籠を製作させていただき、当日飾るようにさせていただきました。

あと、小須戸小学校の5年生に、ちょうど小須戸ARTプロジェクトで滞在していました高橋キャスさんから当日の竹灯籠と一緒にあんどんの製作を、学校に来ていただいて5年生と一緒にあんどんの絵を描く指導をしていただきました。

あと、当日のまちなか演奏会のチラシを、当初予定ではPR動画や記録のための動画作成を計画していたんですけども、PRはチラシやインスタグラムの情報発信で行い、映像に費用をかけるよりも演奏会の中身を充実させたほうがよいと考え、出演者への謝礼や竹灯籠製作のほうに力を入れさせていただきました。

出演者は、小須戸中学校の吹奏楽部、鳥羽香織さん、N e i g h b o r h o o d、田村優子、小山瑠美子さん、斉藤晴海さんの方々からご出演いただきました。

当日の会場図と準備風景になっております。一番上は、町屋ギャラリー薩摩屋です。下のところは、わかばのところで、あと了専寺前の竹灯籠の製作した場所、あとはわかばのほうの右下は会場図になっております。

当日了専寺会場には、最初に小須戸中学校吹奏楽部から演奏していただき、その後N e i g h b o r h o o dのほうの演奏という形で、左側の下のほうは入場していただいたり、また出たりというところの写真になっております。あと、旧わかばにはしの笛の田村優子さんの演奏があり、同じく入れ替わりまして鳥羽香織さんのクラリネット三重奏の演奏がございました。こちらのほうが、各会場でのお客さんの入りの状況です。特に了専寺で演奏するという事は、なかなかお寺で演奏することもないですし、歌うこともないということで、大変出演者の皆さんから喜んでいただきました。

あと、小学生のほうは自分で作ったあんどんを見に来た小学生と保護者など、延べ来場者の数は330人です。本当に4年ぶりの開催ということで、何人ぐらい来るかなと心配したんですけども、当日大変盛況で、最後の了専寺の小山さんの歌には120人を超える入場となりました。こちらのほうは、小学生のあんどんとコミ協のほうで仕掛けた飾りを夜飾らせてもらいました。

地域の一体感といたしましては、今回のまちなか演奏会は準備段階から多くの人に関わっていただきました。特に小須戸小学校の5年生も関わってくれたこと、あと商店街のほうはあんどんというか、ちょうちんを雁木につけていただいたり、そういう意味でコミ協、学校、商店街、自治協、地域住民のボランティアが一緒になって小須戸まちなか演奏会ができたと思います。

今後の取組といたしましても、来年度も実施していきたいと思っておりますし、町部

だけでなく、地域外にも演奏会を開催したいというふうに考えております。

せっかく今日皆さんおいでいただいたので、これから1分ほど動画を見ていただきたいと思いますので、ちょっと御覧いただきたいと思います。当日の1分間の動画を御覧いただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

(小須戸まちなか演奏会の動画放映)

(小須戸コミュニティ協議会：村井)

こういう感じで演奏会をさせていただきました。

以上です。ありがとうございました。

(加納委員)

小須戸コミ協さん、ありがとうございました。私もこちら聞かせてもらいましたが、彼女は小柄な方でしたけど、着物をリメイクされたドレスを着て、すごく何よりずっと大きな感じで受け止められました。

ご質問のほうはございますでしょうか。よろしいですね。

じゃ、ありがとうございました。

続きましては、「聞き書き養成講座『国鉄と茶畑の歴史・文化を発掘する』」、小口彩さん、お願いいたします。

(NPO法人はぐハグ：小口代表理事)

ありがとうございます、貴重な機会をいただきまして。このたびご採択いただきまして、誠にありがとうございます。聞き書き養成講座ということで、こちら目的としましては秋葉区にしかないなりわいと資源を発掘し、現在残っている記憶を記録に残して、次世代に残していきたいというところの強い思いがありました。

現物は、今冊子サンプルが2部出来上がっておりまして、こちらちょっと読ませていただきたいと思います。1つは、キオスクの始まりということで、鉄道に機関車の機関士さんをされていた方なんですけど、例えばキオスクについては「昔は平均寿命も短く、定年が55歳だったのですが、それでも在職中に亡くなるという人が結構いて、危険な作業も多かったんで、労働災害で亡くなる殉職する人もかなりいました。そこで、後藤新平は旦那さんが死んで働き手を失った未亡人のために、駅売店などを展開する鉄道弘済会というのを設立し、旦那さんが亡くなっても女手一つで家族を養っていくことができる環境を整えたんです」、ええっと思いました。キオスクがあったことは分かるんですが、何のためにそれがつくられてきたのかとか、私自身さくら保育園というところに通っていたんですが、その法人名もこの弘済会になっていて、近くに物資部というところもあったのが、なぜそこがあったのかという何か謎が解けていく感じがありました。

あとは、もう一つ、お茶についてですが、新津高校の4期か5期の方ということで80代を少し過ぎている方なんですけれども、「昔は高校の裏手全てが山でした。高校の先生がお寺さんだったんです。「今日は、俺これから葬式出しに行かないと駄目だから」と言って「午前中おまえたち勝手に予習勉強してれていうときに、新津高校は茶畑持っていたんですよ。それをさ、そういう暇な連中は茶畑に行って、おまえらお茶摘みせいで。私も1回だけ行きましたけどね」ということで、授業を抜け出してお茶を摘みに行って、それを稼ぎにしていたというところも出てきたりしまして、その聞き書きによって独自のなりわい支援というのは実際には今埋もれている状態にして、これをきっかけに人のつながりを生み出して磨かれる機会を今後つくっていけないかなと思っています。

聞き書きを行いたいと思ったのは、まずは字というのを身体化して生きてきた方々というふうに捉えています。その生きざまに触れることによって、私自身もですが、これからの世代の方々にとってもこういう生き方、こういうなりわいができるのかというところが学べるのではないかとということと、私たち自身が今住んでいるこの土地のルーツとなることとつながっていくことができるのではないかとということ、そしてほかにはないというところがやっぱり豊かさなんじゃないかと思ひまして、住む人自身が誇りを持っていけるというところにつなげていけないかと思って実施させていただきました。

この聞き書きの特にポイントとなるのは、中高生も作品づくりができます。そして、語り手、家族が作品を手にしてもとても喜ばれます。ですので、今回の冊子は語り手の方々にもプレゼントをさせていただければと思っています。できればなんですけれども、冊子自体ではなくて、アーカイブ化して、これ自体を残していくことができたらいいのではないかなと思っています。また、移住者の方々へも地域の魅力というのを発信することで、遡及効果もあるのではないかなと思っています。

この言葉というのがやはり魅力の一つとして、この方々のお話ししてくださる中に新津弁というのがやっぱりたくさん含まれていまして、そこがすごく温かさにもつながっているかなと思っています。

このたび開催させていただいた方々は、イソベさん、ツチヤさん、ワタナベさんというそれぞれの専門家でいらっしゃって、お話を伺いながら感じたのは、やはりまちってどう捉えていらっしゃいますかね、皆さん。今回この話を聞いた中で、新津は実は職人のまちだったんじゃないかという見方が変わる機会になりました。特にイソベさんが機関士だった方なので、天皇様を運んでくる機関車の運転士さんのプロがいて、皆さんが待っているところにちょうど着いたらかっこ悪いので、5秒各駅遅らせて到着させるという

ことだったらしいんです。でも、車に比べると鉄のレールと鉄の車輪なので、すごく止まりにくいんです。そこをいかにやるかという神がいたという話を聞かせていただきました。

参加者の方々としては、やっぱり「新しい世界に触れることができるので、わくわくする気持ちを久しぶりに味わえました」ですとか、いろいろ書いたものが形になるといううれしさを感じていただけたようです。せっかくなのでということでアンケートを取らせていただきまして、1としては今後あったら聞きたいテーマ、鉄道の別の部署、さっきの女子部のようなほかの部署がたくさんあったわけですので、そこについて伺いたいですとか、竹細工、これは小合のほうでしょうか、川沿いのほうでやっていらっしゃったと思うんです。そちらのことですとか、花卉園芸ですとか、ガラスについて、あとは鉄道に関係して三色だんごとか駅弁についても伺ってみたいですよというお話がありました。

この後に私たちがそもそも生きて死んでいくときに、ちょっと不安を感じるなというときにでも、この土地でこういう方々がこうして暮らしていたということにちょっと立ち戻ることでもまた勇気がもらえるきっかけになればいいなと思っています。

このたびは、ご採択いただきましてありがとうございます。

(加納委員)

彩さん、ありがとうございます。

皆さん、何かご質問はございませんでしょうか。

1つ私いいですか。その冊子は、どうしたら手に入りますか。

(NPO法人はぐハグ：小口代表理事)

ありがとうございます。これから冊子100部出来上がってまいりますので、欲しい方に皆さんにお配りさせていただくとともに、図書館にも寄贈させていただこうと思っています。

(加納委員)

以上です。皆さん、やはり地域のことに触れるためにもぜひお読みください。ありがとうございました。

引き続きまして、「アキハフジンロックフェスティバル&ドリーピース」、お願いいたします。ファミリーショーです。

(アキハファミリーショー実行委員会委員長：笹川)

じゃ、資料を準備させていただいたので、ご挨拶させていただきたいと思います。アキハファミリーショー実行委員長の私、笹川ヒデオと申します。このたびは、ご採択いただきましてありがとうございます。



では、内容のほうを説明させていただきたいと思いますので、画面のほうを御覧いただけるとありがたいです。昨年シンガーソングライターのTAMiさんがアキハフジンロックフェスティバルということで、そのときもすごい大盛会だったコンサートなんですけど、今年度は私自身所属している保育アーティストチーム、ドリーピースという、メンバーが保育士資格や教員免許を持つ子供向けのパフォーマーが集まったチームと一緒に力を合わせて、アキハフジンロックフェスティバル×ドリーピースという形でアキハファミリーショーを開催させていただきました。私たちのほかにも、もちろん自治協議会の皆さんやたくさんの方のキッズ、キャストの皆さんの力もありまして、無事盛会に終わることができました。

つい先日、令和6年の3月10日日曜日、秋葉区文化会館のホールにて開催させていただきました。子供たちが様々なことに取り組めるように、テーマは「チャレンジ・自由でいいんだ!」というようなテーマをつけさせていただき、私たち大人自身も、また子供たちの周りの保護者の皆様にも関わってもらえるように、親しみやすいテーマをつけさせていただきました。

こちらが配らせていただいたチラシになります。左のほうが表紙で、右のほうが裏表紙なんですけども、いろいろなコンテンツ、エンターテインメントショーを加えた複合型のショーとさせていただきます。1公演目が1時から2時15分、2公演目が3時半から4時45分という、1公演当たり大体1時間15分のショーをさせていただきました。今回は、子供たちに形として残るものも併せてプレゼントできたらと思っておりまして、シンガーソングライターのTAMiさんが日本全国で唯一作っているてぶくろモンスターというものがあるんですけど、それを来場者の子供たちに無料でプレゼントさせていただきまして、たくさんの子供たちに手作りのてぶくろモンスターを持っていただいて、実際にコンサートの中でも楽しんでいただきながら、日本で、世界で1つだけのてぶくろモンスターを持ち帰っていただくということをさせていただきました。

次のページをお願いします。今回は、たくさんの方々に来ていただくということで、一応秋葉区文化会館は500人近く入るんですけども、余裕を持って、ちょっと踊りとか、子供たちにも動いてもらうシーンがあるので、350席という定員を設けさせていただいて、どの枠もさせていただきました。これ途中のシーン、予約サイトの中の一部を切り取った場所なんですけども、無料のホームページのところを作成させていただきまして、保護者の方というか、申込みのサイトですね、簡単に予約ができるようなページにさせていただきました。私たち自身も集計が変な話簡潔にできるような形をさせていただきました。無事第1部、第2部ともに350枚のチケット掛ける2の700枚のチケットを手にと

っていただきまして、たくさんの方々に来ていただきました。

出演は、保育士シンガーソングライターのTAMiさん、そして保育アーティストチームのドリーピース、小学生のキッズキャストによる21名の子供たちにも手伝ってもらいました。先ほどもお話しさせていただきましたが、来場者数として第1公演、第2公演ともに350名が定員予約で埋まりまして、関係者も含めて両公演で700名以上動員させていただきました。

また、内容についてです。今回は、キッズキャストの子たちとコラボしながらやらせていただきました。これは、もち麦の歌に合わせて踊りをしているシーンなんですけども、子供たち10人の女の子でももち麦ガールズというこのときのためのアイドルグループを結成したんですけれども、たくさんの子供たちにもち麦の歌に合わせて、TAMiさん、そしてドリーピースのまおちゃんと小学生のキャストの子たちと一緒にたくさんの皆様の前で発表してくれました。

また、楽器にもチャレンジをさせていただきました。子供たち自身が、私たちがパフォーマンスいろいろやらせてもらっているんですけど、実際に見てもらって、自分たちがやりたいものに手を挙げてもらったり、これやりたいというのを自分たちで選んでもらいました。その中でウクレレやりたい子がいたり、ピアノがやりたい子もいたので、連弾という形でやらせてもらったり、実際歌を歌いたい子もいたので、そういう形で一緒にやらせてもらいました。

続いてなんですけど、白衣を着ているんですけども、よくでんじろう先生とかテレビで見たことある方も多いと思うんですけど、エベソン博士というものづくり博士が秋葉区にいまして、こういういろいろな実験をしながら、いろんなものを作っていくということをさせていただいております。これは、桜の木を子供たちと一緒に作ったり、桜餅を子供たちと一緒に作ったりしているシーンです。

これは私なんですけども、マジックショーを子供たちとさせていただきました。みんな本当に上手に発表してくれました。

また、ちょっと変わったパフォーマンスなんですけど、シャボン玉ショーというのをさせていただきました。よくシャボン玉というのは、外で遊ぶようなイメージがあると思うんですけども、全面に養生シートを敷かせていただいて、子供たちと一緒にいろんな形のシャボン玉をつくったり、大きなシャボン玉の中に小さなシャボン玉を入れたり、いろんなことに挑戦してもらいました。

また、今回秋葉区自治協議会の中島先生からもご出演いただきました。ウルトラマンの格好をされているんですけど、非常に盛り上がりました。実は、第1部、第2部ともに

出演していただきまして、本当に改めてありがとうございました。

また、先ほどお話しさせていただいたてぶくろモンスターのワークショップ、こちらは開演前の時間1時間取らせていただきまして、子供たちに好きなパーツを選んでもらって、自分たちでオリジナルのてぶくろモンスターを作るということをさせていただきました。目玉が何個あってもいいですし、口が何個あってもいい、髪の毛はどんな色になってもいい、オリジナルのてぶくろモンスターを作って、最後には会場で子供たちと一緒に手袋をして「モンスター」という曲を一緒に歌って、踊って楽しみました。

こういったような秋葉区役所の地域総務課の皆様、秋葉区自治協議会の皆様、ほかにもたくさんの皆様にお力添えをいただきました。本当に今回ご採択いただきまして、ありがとうございました。皆様のおかげです。大変ありがとうございました。

以上になります。

(加納委員)

ファミリーショーの・・・ありがとうございました。

皆さん、何かご質問はございますでしょうか。

これです。モンスター。ありがとうございます。

(アキハファミリーショー実行委員会委員長：笹川)

加納委員、来ていただきましてありがとうございます。

(加納委員)

皆さんに作ってもらったんですけど、これはちょっと受付のほう間に合わなかった子用に準備したんですが、残ったものなんです。すごく迫力ありまして、皆さん楽しんでいただいております。

ご質問はないですね。ありがとうございました。

(アキハファミリーショー実行委員会委員長：笹川)

ありがとうございました。

(加納委員)

ラストになります。チョイ戦のお二人、お願いいたします。

(新潟大学経済科学部：佐藤)

それでは、説明させていただきます。

まずは、今年度ご採択いただきましてありがとうございました。私たちは、チョイ戦という名前で今年度1年間活動させていただきました、新潟大学経済科学部に所属しております佐藤優樹と齋藤綺になります。本日は、2名で報告をさせていただきます。お願いいたします。課題としては、このような形で見ていただきます。

まず、チョイ戦という名前に込めた思いと活動の目的という部分を併せてご紹介させていただければと思います。私たち学部の中で地域リーダープログラムというところに所属しているのですが、そのプログラムの関係上、様々な地域に一步踏み出すような申請をしまりました。そこで調整してきたからこそ得られるような学びというところがすごく大きいなというふうに感じております。ただ一方で、挑戦という部分がすごくハードルが高く感じられる方も多いのではないのかなというふうに感じていて、本当に気軽な一步を僕たちが一緒に歩めればなというところでチョイ戦という名前で活動を進めてまいりました。最終的には、世代問わず誰もが自分の理想に向けて気軽に一步を踏み出すことができるような地域というところのサポートができればなというふうに考えております。

その上で、今年度としましては、まずは同世代という部分、特に高校生、大学生を対象にそれぞれの理想に向けた活動ですとか、こんなことをやってみたいなというところを吸い上げるところから、実際に一步目を歩み出すようなきっかけをつくれればなというふうに思い、活動を進めてまいりました。

(新潟大学経済科学部：齋藤)

次に、実際に行った活動について紹介させていただきます。

私たちチョイ戦は、主に2つの活動をさせていただきました。まず、フリースペースの運営というほうになります。こちらは、開催期間としましては10月から1月の週2回、月曜日と土曜日、各2時間ずつ行いました。場所は、新津駅の東口にあります灯心文庫という施設を渡邊さんからちょっとお貸ししていただきました。ありがとうございました。そちらのほうでは、高校生だったり、地域の方10名程度に立ち寄っていただきました。今佐藤が掲げているものが秋葉区マインドマップというものでして、真ん中に秋葉区という文字を書いて、そこから来てくださった方が秋葉区の理想であったり、どんなところが好きか、またこういうことに困っているというものを書いてどんどん派生させていくという、皆さんが考えていることを可視化したものを作らせていただきました。

では続いて、交流会のほうです。こちらは、今年の2月3日、隣の新津健康センターのほうで開催させていただきました。こちらには、薬科大学生が新潟大学の学生さん3名と地域の方12名の方に参加していただきました。こちらでは、ちょっと小さいんですけども、ワークシートを用いて、先ほど言った秋葉区マインドマップに似た感じで、参加者の皆様がどんなことを秋葉区に対して考えていて、また自分はこういうことに挑戦したいんだけど、何に困っているのかというのを参加者同士の皆さんで意見を交流し合いました。そして、今、次のもう一つ、佐藤が掲げているのがみんなのチョイ戦という題名

にして、私たちチョイ戦として地域の方々、学生さんの次なる一步をサポートしたいというところから、じゃみんなの挑戦は何なのかというところを1人ずつ発表してもらって書いていただきました。実際に例を挙げますと、学生さんがゲームサークルをつくって、秋葉区でゲームサークルを基に学生さんだったり地域の方と交流したいといったものがあつたので、その実現に向けて今徐々に動き始めているというところになります。

最後に、将来ビジョンについてです。来年度私たちチョイ戦は、・・・を引き続き行っていきたいというふうに考えております。2つありまして、まず1つ目は高校生、大学生を活動にさらに巻き込むということになっています。今年度も目標として掲げてはいたのですが、なかなかうまくできなかったというところがありますし、ようやくこれからチョイ戦も秋葉区で動けるのではないかとというところで、交流会にそのときに出た先ほどのゲームサークルのほうとして10人、高校生、大学生をもっと巻き込んで一緒に活動する仲間を増やしていきたいというふうに考えています。また、もう一つ目として、秋葉区の学生団体といえばチョイ戦って言うてもらえるように、学生目線、学生ならではの視点で秋葉区でどんな活動を行えるのか、学生さん自身もまた考えていきたいなというふうに思っています。

最後ですが、活動していくに当たって、まだまだ名の知れていない私たちチョイ戦は、やっぱり周知という面がすごく難しかったなというふうに考えております。その点に関しては、自治協議会の皆さんだったり、秋葉区の総務課の方にたくさんお手伝いしていただきました。本当にありがとうございます。来年度もサポートをいただけるように、私たちも一生懸命頑張っていきたいというふうに考えております。サポートしてくださった皆様方、参加してくださった皆様、本当にありがとうございました。

これにて報告を終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。

(加納委員)

チョイ戦の皆さん、ありがとうございました。地域の方参加ということで、新金沢町の長崎さんという方も参加されておりました。私も実は参加させてもらいましたが、何かいろんな方の意見を聞けるというのはこの年になってもと嬉しいですか、楽しいことだなというふうに思いました。ぜひぜひ自治協の皆さん、次は皆さん参加しましょう。こんなバッジもできているみたいです。「タイトル未定」というの。彩さんも出席してくださいませので、ぜひ。ありがとうございました。

何かご質問はございますか。はい、五十嵐さん。

(五十嵐委員)

特に今課題になった、秋葉区で課題になっています高校生とか若い世代が気軽に集ま

れるスペースをつくったということで、すばらしいことだと思うんです。これやっばりちょっとPRも、初めてなので、十分ではなかったのではないかなと思って、私ちょっと知らなかったんですが、灯心文庫さんの前を通るときはこのスペースは何かやっているんだよなどは思っているんですけども、実際にこういう取組をされたということは存じていませんでした。残念でした。このチョイ戦というネームなんですけど、何か戦うのかという感じするんですが、どういう意味でそういう・・・されているんでしょうか。

(新潟大学経済科学部：佐藤)

すみません。ありがとうございます。チョイ戦という名前は、気軽な、「挑戦」ということの「挑む」を少しハードルを下げるべく、本当にちょっとした一歩というところと一緒に歩めたらなというところでチョイ戦とさせていただきます。

(五十嵐委員)

ちょいとした挑戦という意味ですね。分かりました。ありがとうございました。

(新潟大学経済科学部：佐藤)

ありがとうございます。

(加納委員)

ほかにございますでしょうか。はい、区長、お願いします。

(区 長)

新金沢町の長崎です。1つ伺いたいのは、来年またきらめきサポートプロジェクトにチョイ戦する予定があるのかどうかと、これは1つアドバイスじゃないんですけど、レポートにも書いてあるとおり、未来プロジェクトの中で子供たちの居場所って先ほど五十嵐さんがおっしゃっていただいた課題だなと思っていて、新年度、区のほうもそうですけれども、自治協さんのほうにも一緒になって検討いただけないかなと実は思っていて、昨日も新津高校の探究の発表でスロウハウスでイベントをやられたときに、高校生と話をして、ぜひ一緒に検討だったり、自習スペースだったりってつくれるといいよねという話をしてきた中で、何かそういう連携するところにもぜひ関わってほしいなと思っていましたんで、これは希望なんですけど、冒頭申し上げました新年度もチョイ戦する予定なのかどうかお聞かせください。

(新潟大学経済科学部：齋藤)

ありがとうございます。もちろん来年も、きらめきサポートプロジェクトにチョイ戦させていただきたいなというふうに考えております。去年の7月からの説明、6月でしたか、説明に参加したときも、今年度限りのものではなく、継続的にというものも一つの要素として入っていたと思いますし、ようやくこれから何かいろいろわくわくできる、

活動ができるのではないかなというふうに活動して思ったので、ぜひまた応募したいなというふうに考えております。

もう一つのほうに関しても、ぜひ学生さんとのつながりでチョイ戦をもっと盛り上げたいなというふうにも思っていますので、連携できたらなというふうに考えております。

(加納委員)

区長、何かすごく心強い言葉いただいたかと思うんです。ありがとうございました。

ごめんなさい。彩さんから質問あるそうです。

(渡邊委員)

質問というよりは、すみません、ご一緒させていただいてとてもうれしかったというのと、すごくポテンシャルが高い方々で、プログラムの企画もできますし、ワークショップも実際にたくさん経験していらっしゃるの、自分たちで運営ができます。ですので、ぜひコミ協の皆様、来年度活動される際にご依頼ください。あと、SNSでの発信ですとか、チラシの作成というのもお二人でやられていたので、ぜひそちらもご依頼ください。

以上です。

(加納委員)

あとはよろしかったでしょうか。

お二人、ありがとうございました。

今年度5組のきらめきサポートプロジェクトを採択させていただきました。ご発表いただきました5団体の皆様に盛大な拍手をお願いしたいと思います。

以上をもちまして、きらめきサポートの報告会を終了させていただきます。ありがとうございました。

(中島会長)

加納部会長、ありがとうございました。もう若い人がいるだけで、やっぱり空気って変わるんですね。本当にいつになくって言ったら怒られちゃいますけども、爽やかな風が吹き込んできた感じになりました。ありがとうございました。成果、結果だけではなくて、本当に皆さんの熱い思いも感じ取ることができました。事業のほう、今後は自立して継続、発展をさせていくということが求められていくかと思います。今後も展開、動向に注目していきたいと思います。ありがとうございました。

### (3) 令和5年度秋葉区自治協議会提案事業の事業評価について

(中島会長)

それでは次に、3です。「秋葉区自治協議会提案事業の事業評価について」、各部会長か

ら説明をお願いいたします。

第1部会から特別部会の順番で説明をしてください。

では、第1部会、加納部会長、お願いいたします。

(加納委員)

第1部会です。今きらめきサポートプロジェクトの発表が今年度の全てではないかと思っております。皆さん非常に懸命にやっていただきまして、5つ採択しました。本当は4つの予定でしたけど、最後の本当にチョイ戦、これ何かもったいない、入れましょうということでやらせていただきました。やはりもっと、中島会長おっしゃったように、若い人がいる、新しい風が吹いてくる、そういった空気も今後また次年度も継続していければと思っております。

以上です。

(中島会長)

ありがとうございました。

それでは、第2部会を青木部会長、お願いいたします。

(青木委員)

皆さん、ご苦労さまでございます。第2部会、青木と申します。第2部会の事業評価につきまして報告したいと思います。なお、皆様のお手元に配付されている資料、資料の2枚目に書かれておりますので、こちらを見ながら私の話を聞けば随分分かりやすいかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

第2部会のテーマにつきましては、交通と防災でございました。交通につきましては2つです。1つ目が生活交通の支援、それと公共交通の利用促進、これが交通でございまして、防災につきましては防災の講演会ということで、目的につきましてはそこに書かれてあるとおり、生活改善プラン、これに基づきまして……でございまして。それに基づきまして、地域の生活交通支援事業の検証と課題の抽出でございまして。それから、区内におきます公共交通利用促進と、これが目的でございまして、じゃ防災はといわれますと防災に関する意識を高めていただくということ、それと災害発生時に人的被害を軽減すると、こういう目的で行いました。

やった事業につきましては、交通につきましてはそこに書いてあるとおり、昨年7月を皮切りに6つの事業を実施いたしました。防災につきましては、昨年10月15日、文化会館におきまして実際被害に遭われました区長さんご夫妻からおいでいただきまして、講演をいただきました。

その結果はじゃどうかと、アンケートの結果を踏まえまして、皆さんからご意見をお



聞きまして、交通につきましては特に地域の交通の実態、そのニーズの把握、これが先決ということで、昨年9月22日、勉強会を実施いたしました。また、その後12月暮れにアンケートを実施いたしました。

この結果、非常に的を射た事業だったと思います。なぜかといいますと、今新潟市内の最近のバス路線収支率で一番悪い路線が金津線ですけれども、この改善につきまして大きく第一歩を踏み出すことができた。やっぱりいろいろ勉強会の結果、・・・の関係でよかったなと思っています。

2つ目に、公共交通ガイド、これ今までのをまたちょっと直しまして、文字を大きくするとか、色を変えるとか、また要らないのを削除して必要なものを加えるなど、非常に高齢者の方でも見やすい、利用しやすい、そういうふうに作りました。

それから、防災の関係につきましては、さっき申しましたように、防災の講演会を実施いたしています。

それから、公共交通につきましては、毎日の生活支援、これを実施いたしました。これ満日コミ協の方が主体になっていただいて、コミ協関連の福祉施設の方にご協力いただきまして、高齢者の買物支援、そんな関係で非常に高い好評をいただきまして、これからも実施して、また第2部会も全力で応援していく、こんなことでございます。

防災の関係につきましては、被災された区長さんご夫妻、この方が陣頭指揮を執られたということと、特に奥様から女性の立場、女性の目線からこうあるべきだ、こうすべきだということで非常に貴重なご意見をいただいた。それも一方的な講演でなくて、対談式にやったということで、アンケートなんかでは非常によかったと、またできればやっていただきたいと、こういう好評を得ています。結果的に非常によかったなと思っております。

それから、最後なんですけれども、1月元旦に地震が襲いまして、最近地震も頻発しております。また、今後も自然災害が来ることもいろいろ予想されておりますので、最悪の場合はまず人の命を守る、自分の命は自分で守る、こういうことを大前提にこれからもいろいろな訓練をやっていきたいと、そんなふうに考えております。

なお、今年度の防災の関係につきまして、・・・の最後、その他のときにまた皆さんに改めて連絡やらお願いしたいと思っております。

以上で第2部会の事業の評価報告を終わりたいと思っております。何か皆さんご質問なりご意見等ございませんでしょうか。

(中島会長)

最後にまとめてお受けしたいと思っております。

(青木委員)

分かりました。

以上で終わります。

(中島会長)

青木部会長、ありがとうございました。

それでは、第3部会ですね。佐々木部会長、今マイク回ってきますので。

(佐々木委員)

あっ、回っています。ありがとうございます。

(中島会長)

あっ、ありましたね。

(佐々木委員)

第3部会の佐々木です。第3部会の事業報告です。

令和5年度の事業として、A k i h a おとな大学の継続を行ってきました。事業としては、「もち麦c o o k i n g ~ パン作り教室 ~」と「花とみどりの講演会『秋葉区は植物の宝庫 ~ 身近な植物を楽しもう ~ 』」を実施いたしました。

委員から本当にたくさんのご意見を頂戴して、このように掲載してございます。今回は、ここにぎゅっと凝縮することができなくて、かなり省かせていただいております。委員の皆様、もしかしたら見たら、あれっ、私の意見がというふうな方もいらっしゃるかもしれませんが、集約させていただきました。どちらのイベントも満足度が高いものとなりまして、事業の評価としては高評価に終わりました。

今後の提案として、もち麦についてはほかの事業とのコラボレーション、グッズ、歌、ダンスなどPRに関する提案が多く、消費拡大を進めていくことが示されています。山の手地区をもち麦の里という位置づけ、消費拡大関連事業につなげてはどうかという意見も出ました。

講演会は、より多くの方へ関心を持ってもらえるような取組、自治協の認知度向上も含め、ほかの企業や団体とのコラボを企画してはどうかと提案されました。

課題としては、もち麦は消費者が価格が高いと感じ、購入にちゅうちょしている点からも、健康や美容によいとアピールしたり、企業、学生等を巻き込む必要を感じるということでした。また、分かりやすく伝えるためのツールの開発等も課題として上がっています。

講演会の課題は、アンケートにより異なるテーマへの興味、例えば歴史、トレッキング等の要望もあり、若者から子育て世代を含めた幅広い年齢層が参加できるような魅力的

な講座が必要だという意見が出ていました。

とにかく部会の皆さん大変熱心で、イベントは満足度98%から100%と今回大成功を収めました。前向きに次年度に向けてまた頑張っていこうとしているところです。

以上で部会の事業報告を終わります。

(中島会長)

佐々木部会長、第3部会の報告ありがとうございました。

それでは、広報部会を、森田部会長、お願いいたします。

(森田委員)

広報部の森田です。前期の広報とそう変わっていないんですが、予算の関係でちょっと少なくなったかなという部分はありますけども、FMの「あきはくはつものがたり」、これは毎月第2水曜日の12時から30分行う番組でございます。これについては、後でちょっと評価内容を送ります。

スポットCMの放送、これは本当に20秒程度の放送を・・・を中心に250本行っております。

あと、かわら版「あきはくはつものがたり」ということで、年間33号、34号ということで2部の発行にとどまっております。これについても、34号は今回出ておりますので、十分見ていただくということになります。

あと、前回と変わったところは、区役所のホームページに広報部員によるレポートを市のホームページに載せていただきました。広報の部分ということで、今回6つぐらいしか載っていないんですけども、今日の事業、特にきらめきサポートプロジェクトなんていうのを全部レポートに書きたいなと思うぐらい充実したものもあるんだなと思いました。

広報委員の皆さんは、それぞれの部会に入りながら、また広報ということで大変な思いをしていただいたんですけども、十分読者のため、またエフエム新津を聞いているリスナーのためにまたもう少し頑張ろうかなと思った次第であります。

FM版の「あきはくはつものがたり」なんですけども、1年間エフエム新津さんと一生懸命やっているとどうしてもパターン化してしまうということがありました。そういうことを少し今回エフエム新津さんとちょっと協議をいたしまして、委員の掛け合いとか、それから現場へ行ってのレポートとか、そういうライブ感を出すというのが欲しいなと思っております。

かわら版につきましては、どうしても年間2部というと最初のかかわら版になりますとどうしても部会長、それから会長、副会長、こういった挨拶の文が最初になりまして、今

回も見ていただきますように、年間振り返ってどうだったという程度の掲載しかできなかったと。ここに、もう一つ真ん中ぐらいに発行ができたらいいななんて少し思いました。それは、委員の特徴とか、それから事業によっては本当に現場の参加者の皆さんの意見とか、そういうことが少し出せなかったということだと思います。そこがちょっと足りなかったかなと思います。

最後に、区役所のホームページにレポートとして我々載せてきましたけども、どうしてもちょっと偏りがあったかなということで、広報委員の皆さんばかりではなくて、部会の皆さんからこういう事業はやっぱりかわら版以外に載せてもらいたいというような意見を聴取して、できるだけ事業が終わってすぐレポートを出すというような流れになっていければなと思いました。1年目の私としても、広報の委員の皆さん中心によくやっていただきまして、本当に感謝したいと思います。

以上です。

(中島会長)

森田部会長、ありがとうございます。

続きまして、ひな・お宝巡り部会、大貫部会長、お願いいたします。

(大貫委員)

報告させていただきます。

8ページ、9ページを御覧になっていただきたいと思います。この事業は、やっぱり自治協委員の方が退任されるときにぜひ自治協として11あるコミ協全体で取り組んでいただきたいということで、そのお言葉を受けて始めた提案事業です。これがこんなに地域に定着するとは3巡目を終えて思っていなかったんですけども、これだけ大勢の団体の方や個人の方から参加していただいて、これはもう本当に新春の秋葉区の恒例行事として定着しているって皆さん思っていると思うんです。

本当にこんなふうな形になってうれしいことと、あとはやはり人が動くと、人流が生まれるとどうしてもお茶を飲む場所どこ、何かおいしいもの食べたい、何か買物をしたって物販の問題が出てきます。私が所属している団体も、区バスに乗って交流センターまで行きました。「ケンミンショー」に出てから三色だんごが何と何と売行きがよくて、予約しないと買えないということで、前日に予約して、それで新津の商店街の中にあるお店で食事をしたんですが、何せお茶を飲む場所もお休みだったり、ないんです。

こんなことを考えると、自治協の中で1号委員で構成したこのメンバーでやってきましたが、やっぱり商工会議所とか商工会とか、皆さんのご協力がないともっともっと盛り上げるできないんだなという課題に打ち当たりました。物販に関しては、中央

さんの小山さんなんかは何かやりたいよな。カフェテリアがあるのに、ちょっとリニューアル中で使えないとか、あの角のところは何かならないのかなとか、いろんなまた思いも膨らんでいきます。やっていけば必ず課題が生まれてきますが、いつまでもこの事業を提案事業として自治協がやっていくことは困難が生じています。皆さんの意見をこの1年間聞きながら、この事業がもっともっと地域に根差すように、実のある事業になるように大切に根づかせていきたいと思えます。本当に多くの方々から育てていきたいと思う事業です。そんなことを思いながら報告させていただきます。

以上です。

(中島会長)

大貫部会長、ありがとうございました。

それでは最後に、コミュニティ未来ビジョンの報告をさせていただきます。資料の10ページから12ページです。びっしり書かれております。ただ、時間に限りがございますので、逐一ご紹介することはできません。かいつまんで報告をいたします。

一言で言うと、令和6年度に向けてのステップアップに向けたフォローアップとサポートをどうしていくかということがやはり部会委員の皆さんの関心事としてあったように思います。確かに異業種、異世代の交流が図れたりとか、また地域人材が新しく発掘できたり、またそうした人たちのネットワークが築かれたりといった点では本当に成果が大きかったと評価できます。本当に11あるコミュニティーでたくさんの提案、提言、プランが出されましたけれども、こうしたまとめられた行動計画を実施していくには、やはり資金とマンパワーなんです。その確保が必要になってきます。その提案、提言、プランもコミ協独自で取り組めるものもあれば、やっぱりほかの地区と連携、協働しながら取り組むべきものもあれば、いやいや、これはもう区全体で取り組むべきもの、また市として取り組むべきものと、とにかくこれ様々なんです。その辺りを丁寧に切り分けをして、優先順位つけてロードマップに落とし込む、そんな作業がこれから求められていくのかなと思います。

本当に多くの部会委員が言っておりますけど、やっぱり資金面なんです。大きな課題です。多くの事業が提案されましたけれど、経費算定、そしてその確保、調達、支援する仕組みをやっぱり提示していかなければいけないだろうということです。全てを行政頼みとしない前提で捻出策を明らかにすることが今後課題になっていくかと思えます。令和6年度においては、そうしたことでフォローアップ、そしてサポート、これらを区とか市とか行政サイドと念入りに協議しながら、自治協で継続的に検討して前進させていただきたいと。それこそ自治協と区行政の知恵を出し合う協働が求められるのではないかと

と思います。

以上です。ありがとうございました。

ということで、第1から第3部会、そして特別部会の事業評価の報告が全てこれで終わりましたけれども、これらの件についてご質問、ご意見ございますでしょうか。よろしいですか。

なければ、これで次第の3「秋葉区自治協議会提案事業の事業評価について」終わります。ありがとうございました。

#### (4) 令和5年度第2回秋葉区自治協議会委員推薦会議について

(中島会長)

それでは次に、4に移ります。「令和5年度第2回秋葉区自治協議会委員推薦会議について」、座長の小山委員から報告をお願いいたします。

(小山委員)

秋葉区自治協議会委員推薦会議の座長をしております小山と申します。どうぞよろしくお願いします。

このたび4名の委員から3月31日をもって辞任の申出がありました。本日令和5年度第2回秋葉区自治協議会委員推薦会議を開催し、後任の委員を選任いたしましたので、ご報告させていただきます。

資料4を御覧ください。1号委員である稲月委員の後任に小合コミ協から今井康弘さん、木村委員の後任に小須戸コミュニティ協議会から板井真紀さん、2号委員である坂井委員の後任に秋葉区社会福祉協議会から稲垣謙一さんを推薦していただきました。また、3号委員の藤村委員の後任には区長が認める者として金津中学校地域コーディネーターの山崎美絵さんから承諾を得ました。4名とも委員の18歳以上という年齢制限、そして他の附属機関との併任数が制限数内であり、要件を満たしていることから、推薦会議運営要綱第8条第1項に基づきまして推薦会議の議決をもって市長へ推薦することになりました。

なお、任期は前任委員の在任期間となりますので、令和6年4月1日から令和7年の3月31日まで、部会は前任委員が所属していた部会にそれぞれ所属していただきます。

以上で報告を終わらせていただきます。

(中島会長)

ありがとうございます。令和5年度第2回の秋葉区自治協議会委員推薦会議ということで、結果について、これ令和6年度からになるんですけれども、小山委員よりご報告が

ございました。

こちらについてご質問、ご意見等ございますでしょうか。

なければ、これで次第の4「令和5年度第2回秋葉区自治協議会委員推薦会議について」を終わります。

## (5) 部会活動報告

(中島会長)

それでは次に、次第の5に移ります。「令和6年度当初予算事業について」、古俣副区長から報告をお願いいたします。

(副区長)

それでは、令和6年度の事業について着座にて説明させていただきます。

お手元には、A3のカラーの資料の5-1をお開きください。令和6年度の秋葉区の主な取組についてまとめております。こちらの資料、22本の事業を掲載しております。説明に入る前に、最初に資料の右肩に凡例がございます。各事業には、赤、緑、青の丸数字を頭につけております。赤は特色ある区づくり事業で、総額は令和5年度と同額の2,900万円となっています。また、緑色は従前の区の重点事業と、それから区民から要望が寄せられていた地域施設整備、この2つを今回から一本化して、区長提案事業として掲げておりまして、令和6年度は主要事業として石油井戸の封鎖といったものが該当しております。それから、青は全市的な視点を持って取り組む必要がある防災、福祉、健康づくりの事業を従来の特色ある区づくり事業から別枠へ移行した事業となっています。

それでは、事業の説明に入ります。初めに、水色の枠で囲まれている環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまちの1番、秋葉公園魅力アップです。こちらの事業は、里山にある自然を生かして公園の魅力を高めるため、秋葉公園にぎわいゾーンの支障木の伐採や間伐を行って眺望や見通しを確保するとともに、伐採した木材の一部につきましては試行的に活用を検討していくものです。

次に、2番、秋葉区の花と緑にふれあい隊です。こちらの事業では、新津川、秋葉公園でのクリーン作戦の実施や、国道403号の拡幅予定地をフラワーロードとして植栽整備するなど、区の特徴である花と緑に親しむ環境整備や保全活動を共同で行うことで、環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまちの実現を推進していきます。

次に、3番、廃止石油坑井封鎖です。こちらは、小口、朝日地区の廃止石油坑井から湧出する石油が河川に流出するのを防止するため、封鎖する坑井の周辺地域の測量や工事の施工方法などの事前調査、それから重機の搬入に必要な作業用道路の拡幅工事を行う

ものです。

次に、左下、ピンクの枠で囲まれている、やさしさがあふれる楽しく元気なまちの4番、子ども・若者公共交通乗車促進です。こちらの事業では、区内を運行する対象路線バスの学生の運賃を割引する社会実験を実施し、乗車体験から継続した利用につなげるとともに、併せてアンケート調査を行って、区内の生活交通の改善に寄与することを目的に実施いたします。

次に、5番は子どもの遊び場づくりです。本町1丁目にある昭和公園の再整備を図っていくものです。

また、6番から9番は秋葉区関係の子育て、福祉、健康づくりの事業です。引き続き取り組んでいきます。

続いて、10番の8区防災アクション2024です。こちらは、8区において今回の地震を踏まえた防災、減災関連事業を実施するために新設された事業となっています。秋葉区では、災害の経験を生かした自主防災組織や防災士の皆さん、それから地域の防災担当者の皆様から広くご参加いただいた防災訓練を企画していきたいと考えております。また、女性や子供に配慮した避難所の環境づくりにも取り組んでいきたいと考えています。

次に、右上のほうに移ってまいりまして、ベージュ色の枠ですけれども、歴史と個性を活かすまちの11番、アキハ「鉄道物語」です。こちらの事業では、引き続き新津駅東口の観光案内所を運営し、区民や商店街などと連携を図りながら鉄道に関連した取組を実施してまいります。今年は、SLばんえつ物語の復活25周年記念事業というものと連携した企画を現在検討しているところです。

続いて、12番と13番は令和5年度から継続の区づくり事業となっています。

飛びまして、次にオレンジ色の枠のほうですけれども、可能性を生み出し・育て・活かすまちの14番、アキハスムプロジェクトV o 1. 3です。新年度は、引き続き移住コンシェルジュによる移住相談窓口を開設し、相談対応や情報発信など取組を推進してまいります。

また、15番はアキハ人材育成です。これまでアキハスムプロジェクトで実施してきた事業の中から人材育成に特化して事業化したものです。教育懇談会につきましても、この事業の中で実施してまいります。

16番と17番は、鉢花、お米、もち麦の消費拡大に向けて、引き続き実施していく事業となっています。また、新年度は小麦、大麦についても消費拡大に向けて取り組んでまいり予定としています。

次に、緑色の枠で囲まれている区自治協議会提案事業です。18番、きらめき未来プロジ



ェクトはきらめきサポートプロジェクトと未来ビジョン策定支援を統合した事業となっています。5年度にコミュニティ未来ビジョンで策定したアクションプランの実現に向けて支援をしてまいりたいと考えています。

残る19番から22番につきましては、令和5年度からの継続事業となっております。

以上で令和6年度の秋葉区の当初予算事業のうち、新規拡充事業を中心にご説明しました。

続いて、資料5-2でございますが、表紙をはぐっていただきますと令和6年度の秋葉区の当初予算の各課の金額、歳入と歳出に分けて記載しておりますけれども、主に歳入も歳出も災害復旧事業に係る予算、歳入と歳出がそれぞれ6,700万円ほど予算化されたりしております。そういったところが、増えている主な要因となっております。

それから、そのページ以降は先ほど御覧いただいたA3の資料の事業の説明となっておりますので、後ほど御覧いただければと思います。

続きまして、もう一つのホチキス留めで資料5-3がございます。こちらは、今度は秋葉区役所ではなくて、本庁のほうの予算で秋葉区に関連の事業について掲載しております。表紙をはぐって1ページを御覧いただきますと、表の上のほうが鉄道資料館の関係のものとなっております。維持管理費のほかに企画展示に必要な経費を計上しておりますし、また下半分の今度美術館のほうでは企画展の実施や美術資料のデジタルデータ化の経費などを計上しております。

お隣2ページのほうに移りまして、上のほう、道路計画課という課がございます、こちらのほう幹線道路の整備などを担当しておりますけれども、記載の事業費を計上しております。

また、消防局では引き続き秋葉消防署の庁舎の大規模改修を継続してまいります。

次に、3ページを御覧いただきます。下水道事業会計のほうですけれども、こちら下水道分室の奥平室長より説明をお願いします。

(秋葉下水道分室長)

それでは、引き続きまして下水道事業会計におきます秋葉区での事業についてご説明をいたします。

令和6年度については、公共下水道の整備といたしまして5億5,690万円となっております。事業の内容についてですが、下水道施設の改築、浸水対策の推進、下水道施設の耐震化、耐水化、下水道処理区域の拡大、市浄化槽整備事業などとなっております。

まず、初めの下水道施設の改築についてです。令和6年度は、新津中部排水区におきまして雨水管渠の改築工事を約150メートル実施いたしますほか、老朽化いたしましたマン

ホール蓋の取替え、マンホールポンプの更新、新町ポンプ場、それから真木野ポンプ場におきます雨水ポンプ関連の施設の改築を行ってまいります。

次に、浸水対策の推進についてです。これは建設課の担当となりますけども、浸水対策、排水施設整備といたしまして、道路側溝の整備を約110メートル、それから背割れ排水路の整備を約50メートル行ってまいります。

次に、下水道施設の耐震化、耐水化です。令和6年度につきましては、新町3丁目におきまして雨水幹線約260メートルの耐震化を実施してまいります。

次に、下水道処理区域の拡大といたしまして、処理区域内での公共汚水ますの新設を行ってまいります。

最後に、市浄化槽整備事業についてです。この事業は、指定区域におきまして、市が合併浄化槽を設置するとともに維持管理を行うもので、下水道の整備に替えまして効率的な生活排水処理を推進していくものです。予算については、設置申請に基づきまして随時再配当されます。

以上、令和6年度の秋葉区の下水道関連予算についてご説明させていただきました。

(副区長)

それでは、続きまして4ページのほうを御覧ください。教育委員会施設課所管の秋葉区関連の事業となります。

説明につきましては、秋葉区教育支援センターの牧野所長に代わりまして、カタヤマ主任から説明をお願いします。

(秋葉区教育支援センター主任)

教育委員会でございます。担当課は施設課となります。こちらに書いてある事業名の中で、秋葉区に関連する事業といたしまして大規模改造事業がございます。具体的な学校名につきましては、新津二小、新津三小、新津第五中学校が該当しております。

その次なんですけど、空調設備整備事業といたしまして、具体的な学校名は小合東小学校と金津中が該当しております。

次の照明設備LED化推進事業につきましては、新津第三小学校と新津第一中学校が該当になっております。

次の老朽校舎等改修事業につきましては、こちらは結小学校が秋葉区において該当となっております。

簡単ではございますが、以上で説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(副区長)

以上が令和6年度当初予算案の秋葉区関連事業についてとなります。

以上で説明を終わります。

(中島会長)

ありがとうございます。やはり注目されて目に留まるのが、区づくり事業に関わってかなと思います。資料5-1でしょうか。新しく秋葉公園魅力アップ、先ほどのきらサポの事業とも関わってくるんですけれども、新規で区長提案主要事業ということで上がっております。あと、子ども・若者公共交通乗車促進ということで、いわゆる学割が利くようになるということで、こちらは特色ある区づくり事業ということで上がっております。そして、10番ですか、8区防災アクション2024、その他事業ということで上がっておりまして、あと拡充では15番でしょうか、アキハ人材育成ということで秋葉区の特長、魅力を発信できる人材の発掘支援ということで予算がつけられております。

いかがでしょうか。皆様のほうで質問、ご意見。はい、手が挙がりました。じゃ、渡邊委員、お願いします。

(渡邊委員)

ありがとうございます。ご説明いただき助かりました。

5番目の子どもの遊び場づくりについてです。昭和公園ということで、こちらの公園だけに集中しているように見受けられるのですが、20年か30年前、秋葉区でも公園のワークショップが行われた際には秋葉公園と新栄町公園、山谷町の三角公園、そちらについても住民の方々のワークショップを得てどういう公園にしたいかということで動きがあったようなんですけれども、ほかの公園については住民の方々の声などを聞く機会などはつくられるご予定でしょうか。

(中島会長)

これ回答どなたに。じゃ、今井さん、お願いします。

(建設課長)

ご質問ありがとうございます。建設課長の今井でございます。今回子どもの遊び場づくりとして対象としているところが新津駅に程近い昭和公園といったところをターゲットにして、今現在は遊具もなく、広場状態、原っぱ状態というふうなところを地域の皆様と意見交換しながら、今後の再整備に向けた取組を進めていくといったところでさせていただきます。そのほか秋葉区内には約200ぐらいの大小合わせて公園ございます。それぞれがほぼほぼ地域の公園愛護会ということで自治会などの皆さんで日常的な管理はお願いしている中で、今後見直しが必要とされるような場合にはご意見等をお出しただいて、手直し等必要なものについては取り組んでいきたいと思っておりますが、200以上も

ある中で全てを一気に取り組むということは難しいような状況でございますが、やはり老朽化が進んでいく中で必要な取組に対してはご意見をいただきながら取り組んでいきたいと思っております。

(中島会長)

渡邊委員、よろしい。

(渡邊委員)

ありがとうございます。誰のための、何のための施策なのかというところを考えたときに、昭和公園に行ける子供たちって限られると思うんです。それぞれの自分の足で行ける公園でどうなったらいいかという声もぜひ何かの方法で聞いていただけるとありがたいなと思っております。

(建設課長)

ありがとうございます。参考とさせていただきます。

(中島会長)

はい、木村委員、手が挙がりましたか。じゃ、お願いします。

(木村委員)

小須戸コミ協の木村です。せっかく予算についてお話しいただきましたので、2つお尋ねしたいと思います。

1点目は、きらめき未来プロジェクトの総額が示されましたけども、私どもはこれからプロジェクトチームのようなものをつくって具体的な検討を進めていきたいなというふうに思っているんですけども、この未来プロジェクトの予算の配分といいますか、使い方についてはどのようにお考えか、これが1点です。

それから、2点目、小須戸地域で今困っている問題としては、体育館にアスベストが検出されたというので使用ができなくなっています。6月まで調査結果が出るのを待ってくださいというふうにしてすごくかかっているんですけども、今後はどこが窓口になって使用ができるようになったとか、あるいはできない場合はどうするとか、あるいは改築をするとか、そういうふうなのはどこと私どもは話を進めていけばいいのか、それをちょっと教えていただきたいです。

(中島会長)

2つ出されていますね。1つ目が、自治協提案できらめき未来プロジェクト、こちらの配分どうなっていくんだ、これが1つ。あと、町民体育館ですか。中学校体育館ですよ。町民体育館になるのかな。

(木村委員)

ちょっと正式には分かりません。

(中島会長)

ああ、そうなんですか。アスベスト、この対応はどうなるのかと。まず、きらめき未来について、じゃ古俣副区長、お願いします。

(副区長)

18番のきらめき未来プロジェクトは、区自治協議会提案事業の位置づけで340万円という予算で組ませていただいております。従来のかきサポ、それから11コミ協さんの未来ビジョンの関係、アクションプランの関係、そういったところへの支援、ほかにも人材育成の取組なども想定しておりますけども、実際の予算配分というのは、やはり自治協議会の委員の皆さんとも協議の中で実際に配分されるものと思っております。予算の積算上では、たしかかきサポが100万円と11コミ協さんの未来ビジョンの関係が220万円と、あと人材育成が20万円だったかと思えます。それは、あくまで予算の積算上の話ですので、実際には自治協の委員さんをご相談しながらだと思っております。

それから、2点目の小須戸体育館のアスベストの関係の窓口につきましては、地域総務課が窓口となります。これから対応についてまだ検討するような状況であります。

以上です。

(中島会長)

木村委員、よろしいでしょうか。

(木村委員)

はい。

(中島会長)

ほかにかがででしょうか。ご質問、またご意見等でも結構ですが、よろしいでしょうか。

なければ、じゃこれで……手が挙がりました。じゃ、五十嵐委員、お願いします。

(五十嵐委員)

五十嵐です。6年度の当初予算の説明書の中で、地域総務課さんが事業費ということで上げておられますが、今能登半島地震で輪島地区は備蓄品がほとんどなかったと、そういう予算が取れなかったのが、災害が起きたときの防災備蓄品の備蓄が少なかったという事例を聞いています。秋葉区は、備蓄品の補充とか配備については予算をここから配備するのでしょうか。

(中島会長)

秋葉区の災害対策の備蓄品の補充についてですね。

じゃ、古俣さん、お願いします。

(副区長)

避難所の防災物資の備蓄についてですけれども、防災課の予算を各区が配分を受けまして、それぞれの避難所に必要な物資の循環備蓄といいます。食料品などは賞味期限などがございますので、それら新しいものに循環させながら備蓄を行うというようなことを行っております。今回の能登半島地震で実際に秋葉区内でも200人近くに及ぶ方の避難があったわけですが、やはり随所に課題が浮かび上がってきております。その一つの中にも備蓄品の話であるとか、そもそも避難所担当職員の避難所への参集、ちょうどあれは元旦でしたので、通常平日の昼間ではありませんでしたので、近場に住んでいる職員が参集して避難所を開けるというような対応など、いろいろ実際に災害に遭ってみて浮かび上がった課題が幾つかありますので、それらにつきまして秋葉区だけじゃなくてほかの区でも浮かび上がっている課題などを総括する機会を今後設けるということで内部で調整が図られています。ですので、五十嵐委員のお尋ねの防災の備蓄につきましても、もしでしたら具体的にどんな物資が必要だったのかなどご指摘をいただけるとありがたいかなと思っておりますので、よろしくをお願いします。

(中島会長)

五十嵐委員。

(五十嵐委員) 大変力強いお言葉、ありがとうございます。女性の例えばお子さんを連れてお母さんが粉ミルクが備蓄がなかったとか、生理用品がなかったとか、男性の下着がなかったとか、いろいろ女性の視点から必要なものも多々要望が民間では出ておりますので、その準備をされるときにぜひ女性や親子の視点からも提案ができるように・・・いただければありがたいかと思っております。よろしくをお願いします。

(中島会長)

要望でしょうかね。ご意見ということで。

(副区長)

ありがとうございます。小さなお子さんの必要な紙おむつであるとか粉ミルク、それから女性の生理用品等々、またそれを誰が手渡しするのか、手渡しする女性も必要ではないかというようなお声も耳にしております。そういったこともまた今後の対応に取り入れながら考えていきたいと思っておりますし、また他方でこの自治協議会で第2部会で防災手帳と、防災カードでしたでしょうか、を作って住民の啓発にも取り組んでいただいております。そのカードを改めてまた手に取っていただきながら、防災の対応について一緒に考えていければと思います。よろしくをお願いします。

(中島会長)

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。はい、手が挙がりました。菅井委員でしょうか。お願いします。

(菅井委員)

満日コミ協、菅井と申します。長くなって申し訳ありません。

廃止石油井戸の封鎖についての質問であります。多額の予算が予定されているようですが、廃止石油の井戸を封鎖するためというふうに説明をされているところでもありますけれども、秋葉区は石油の里ということで銘打っているわけですがけれども、これをぜひ封鎖するだけでなく、それを何か遺構といいますか、災い転じてではありませんけど、次に生かす方向で検討していただけないでしょうかという要望であります。

以上です。

(中島会長)

ただいまの要望、コメントいただけますか。

じゃ、お願いします。

(副区長)

ありがとうございます。石油の文化、私も石油友の会の主催の講演会なども聞かせていただいて、非常に感銘を受けたんですけれども、本当日本の地質百選にも新津油田は選ばれているということで、また令和2年だったと思いますけども、アラムコ・ジャパンが日本にこんなすごいところがあるなんてということで感動されて、石油の世界館のクリマシアターの展示を寄附されたといったことも過去にございました。石油友の会が非常に一生懸命今後もそういった啓発に取り組んでいきたいと考えておるようですし、やはりこの資源を今後さらに生かさないと手はないと思っておりますので、関係する皆さんと共に力入れていきたいと思っております。よろしくお願いします。

(中島会長)

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしましたら、次第の5「令和6年度当初予算事業について」を終えます。

### 3 その他

(中島会長)

それでは、その他に移ります。

先ほど事業評価で各部長さんから報告がございましたけれども、さらに追加で報告

したいという部会がございましたら、挙手で申し出てください。

青木部会長、はい、お願いします。

(青木委員)

第2部会の青木でございます。貴重な時間をお借りしまして、3点ほど御礼やらお願い、連絡、3点いたしたいと思います。

まず、御礼でございます。特に区民生活課の方に御礼なんですけども、大型獣、熊、イノシシ、この対応について非常にご苦勞していただいて助かったと、こういうことでございます。熊につきましては、昨年の7月ですね。5月2日から始まって、目撃が Outcome して、7月2日まで、約2か月の間、8回目撃されたんです。ああ、これ大変だなと思っていたんですけども、幸いにしてその後目撃はされていないと。熊がいないのかどうか分かりませんが、熊の状況はそんなことでございます。ところが、イノシシにつきましては区内どこでも出ていると、これが現状でございます。これにつきまして区民生活課と金津の方が連携を密にしまして、今年度5頭捕獲しました。全部これは雌でございます。1頭の雌が5頭ないし7頭生むと言われておりますので、この5頭の捕獲は非常によかったなと思います。これは、区民生活課の方に本当にありがたかったと。まだ昨日の段階で小さいのが3頭、親が1頭います。そんな関係で、これから増える可能性がありますけども、これからもいろいろご指導と捕獲のほうをよろしく申し上げます。御礼でございます。

続きまして、お願いでございます。各自治会長さんをお願いということで、防災の講演会です。4月27日、文化会館におきまして、今回は河川洪水の備えということで阿賀野川の河川事務所、建築専門家の方から来ていただいて講演をいただくと。第2部につきましては、災害、特に地震につきまして防災士の方から講演を。そんなことで、4月の27日、来月になりますけども、一応そういうふうに予定しておりますので、お時間ある方は来ていただきたい、こういうお願いでございます。

それから、3点目、連絡であります。委員の方に配付しましたけれども、世界腎臓デーという、こういうチラシでございます。これは、薬科大学の教授の先生と新潟大学のお医者さんが一緒にやりまして、腎臓を守りましょう、出さないようにということで、そして来られた方にもち麦のパンを皆さんにあげると、こういうのを1つ行事を予定しておりますので、都合のつく方がいましたら金津のコミセンが会場になりますので、来ていただきたい、こういうお願いでございます。

以上、3点でございます。ありがとうございました。

(中島会長)



ありがとうございます。報告、お願い、ご案内ということでご発言がございました。

ただいまの件について、コメント等よろしいでしょうか。

なければ、部会報告を終わります。

さて次に、委員の皆様から何かどうしても言っておきたいとか……あっ、手が挙がり  
ました。じゃ、村上委員、お願いします。

(村上委員)

すみません、貴重な時間をいただきまして。もち麦のPRについて、少しお話しさせて  
いただきます。

矢代田小学校の5年生が3月7日の日に産業振興課の方と羽入さんに来ていただいて、私も呼ばれて、5年生のプレゼンを聞きに行ってきました。今年も和菓子、洋菓子、新たに弁当、ドリンク、そして防災グッズも提案して、早速区役所さんが防災グッズを形にしてくださいました。これ表、もちもち麦太郎のイラストが描いてあって、裏には反射テープが。うちの娘は、これを今ランドセルにつけて登校しております。こうやって今形にだんだんとなって行って、子供たちは本当に非常に喜んでますし、もち麦の知識がめちゃくちゃ詳しい。びっくりする。タピオカのドリンクを発売したところ、タピオカにもち麦の粉とグルテンと混ぜて、そこでドリンク絶対できるよねという。あっ、すごいこと考えるなと思っていて、本当に皆さんに聞いてもらいたいぐらいなプレゼンをしてきていました。第3分科会さんからも提案ありましたように、グッズもこれを何とか私学校とコミ協で何とかグッズができないかなと考えていますし、子供たちも多方面に声をかけて今活動を進めています。今年も9月の祭りに行政ブースをもう用意をして、そこでまたもち麦のコーナーを設置することになっていますので、またそこでも何かありましたらPRさせていただきます。

以上です。

(中島会長)

ありがとうございます。小学生をはじめ、子供、若者に広がっていくってとてもうれしいことですね。スイーツですか、もち麦の。ぜひ食べてみたいなって。おいしかったですか。

(村上委員)

今羽入さんが一生懸命。

(中島会長)

あっ、やっているんですね。

(村上委員)

はい。

(中島会長)

楽しみです。ありがとうございます。

ほかに委員の皆さんでどうしても言っておきたい、ございますでしょうか。

では、田中委員、お願いします。

(田中委員)

田中です。先ほどきらサポの発表でもアキハファミリーショーのお手伝いいただいた皆さん、ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

もち麦関連なんですけど、アキハファミリーショーで私がつくった、第3部会の企画でつくったもち麦の歌を歌うアイドルチームをつくりました。そこで披露したんですけども、私じゃなくて小学生が歌ったらすごくかわいくなったので、ぜひどこかでコラボして、山の手ふれあいまつりとかぜひもち麦ガールズを出していただいたり、どこかイベントで、もち麦ガールズをこれからも子供たちが続けていきたいという話だったので、何かの機会に声かけていただければ、もち麦促進にぜひ一役買わせていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

(中島会長)

ありがとうございます。すばらしいですね。子供コラボの期待持っています。ありがとうございます。

ほかにもございますか。よろしいですか。

なければ、実は今日の会議で最後の方がいらっしゃいます。今年度をもちまして、今日お見えになっていないんですが稲月委員、坂井委員、藤村委員、木村委員、最後ということでございますので、順番に一言ずつご挨拶頂戴してよろしいでしょうか。お願いいたします。

それじゃ、坂井委員、お願いいたします。

(坂井委員)

秋葉区社会福祉協議会の坂井です。ここに、自治協に入らせていただいて2年という期間でしたけれども、いろんな地域の勉強、私社会福祉協議会ですので、それぞれの地域の皆さんと色々な関わりの中で仕事はしていたんですが、またちょっと幅を広げたような形でここで勉強させていただきました。このたびちょっと退職することになりました。自治協委員のほうを今日をもって辞めさせていただくという形になりますが、引き続き社会福祉協議会としては自治協に入らせていただきまして、皆さんと一緒に地域のことを考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。短い間で

したが、大変どうもありがとうございました。

(中島会長)

お疲れさまでした。ありがとうございました。

それでは、藤村委員、お願いします。

(藤村委員)

2年という任期でお引き受けしたんですが、ちょっと一身上の都合で今年度で退任させていただくことになりました。コーディネーターの枠ということで参加させていただきましたが、どれだけ私がお手伝いできたのかちょっと疑問で、任期途中で辞めさせていただくのは申し訳ないなと思うんですけども、私としては皆さんと一緒に活動できたことはとても楽しかったし、今後の自分の成長にも役立てたのかなと思います。次、後任に私よりももっと若い子が引き受けてくれましたので、多分とてもよく協力してくれると思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。短い間ありがとうございました。

(中島会長)

お疲れさまでした。ありがとうございました。

それでは、木村委員、お願いいたします。

(木村委員)

大変お世話になりました。前回女性委員の登用推進についてという、そういう文書を頂きました。特に1号委員については女性が必要なんだという趣旨のことが書かれていました。そのことを小須戸コミ協で話ししていましたが、私がやってもいいという方が出てきましたので、あっ、それならもう善は急げだということでお話ししたら、4月からでも結構ですと、今年の来年度初めからでも結構ですということですので、替わらせてもらうことになりました。

今日が最後なので、黙っていようかなと思ったんですが、でもせっかくこの委員をさせてもらって、予算の話が出ましたので、あえてお尋ねいたしました。すみませんでした。こういうふうにならぬことを教えていただけたというのはよかったです。また、ここへ寄せてもらって、いろんな方面で多くの方が活躍されているんだなということを改めて教えていただきました。ここの委員は辞めますけども、まだもう少し小須戸のほうにはいますので、またいろんなことでお世話になるとは思います。どうぞよろしくお願いたします。ありがとうございました。

(中島会長)

坂井委員、藤村委員、木村委員、ありがとうございました。大変お世話になりました。

お疲れさまでした。

それでは次に、自治協議会と市長との懇談会についてのお知らせです。延期となりました市長との懇談会なんですけれども、来月、4月の23日火曜日13時30分から開催となります。皆様からのご出席、よろしく願いをいたします。

それと、下水道申請問合せ窓口について、奥平室長から説明がございます。よろしくお願いいたします。

(秋葉下水道分室長)

皆さん、お疲れさまです。改めまして、下水道分室の奥平です。今日お集まりの皆様については、既に各種報道でご存じのこととは思いますが、今月末をもちまして秋葉下水道分室が廃止となります。この場をお借りいたしまして、改めてご報告とご挨拶をさせていただきます。

このたびの下水道の組織体制では、当分室同様、北区役所にあります北下水道分室も今月末で廃止となります。お手元にお配りいたしました、こちらの「令和6年4月から下水道の申請・問い合わせ窓口が変わります」というチラシをちょっと見ていただきたいんですけども、こちらは分室の廃止に伴いまして、4月1日から業務を引き継ぐ新たな窓口をご案内するチラシになっています。秋葉下水道分室については、業務の内容によりまして西部地域下水道事務所と下水道管理センター維持管理課が新たな窓口となります。

これまで秋葉下水道の分室の業務にご理解とご協力をいただきましたことを大変感謝申し上げます。来年度4月1日月曜日からは、新しい部署が業務を担当することになりますが、引き続きご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。今まで本当にありがとうございました。

以上、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

(中島会長)

ありがとうございました。

よろしいでしょうか、特には質問は。

なければ、以上となります。

あと、古俣副区長から秋葉区の管理職について説明があります。お願いします。

(副区長)

皆様のお手元には、表になった来年度の事務局名簿ということでお配りしておりますけれども、左手のほうが来月4月1日以降の新しい管理職、右側のほうには備考として、その出入りについて記載しております。

私の後任には区民生活課長の高橋が着任します。また、地域総務課では鈴木補佐が退任しまして、坂上補佐が参ります。区民生活課には丸山尚人課長が着任いたします。職員課からです。それから、健康福祉課長には相馬課長に代わりまして南場課長が着任いたします。丸山課長、南場課長、いずれも昇任での着任となります。また、新たに地域医療推進課から伊藤補佐が着任いたします。同様に伊集院補佐、主任指導保育士に代わりまして、新たに鈴木指導保育士が着任いたします。小須戸出張所でございますけれども、牛腸所長に代わりまして、江南区の副区長です松屋が新たに所長に着任いたします。また、農業委員会では嶋倉所長が退任しまして、鷹巻所長が着任されます。下水道分室は、今ほどの説明のとおり廃止となります。奥平室長につきましては、下水道管理センターの施設整備課のほうへ参ります。また、秋葉区教育支援センターでは牧野所長に代わりまして金子所長が着任しますし、新津地区公民館では小林館長に代わりまして森山館長が着任することとなっております。

以上が説明ですけれども、ここでちょっとお時間いただきまして、一言だけご挨拶を申し上げたいと思います。今回退任する職員から一言ずつ申し述べさせていただこうと思います。

私副区長になりまして、4年間秋葉区で務めさせていただきました。新津市の採用で、最後ここで終われるのは本望かなと思っております。この間4年間、非常に多くのことがありまして、どちらかというとき皆さんと相対するよりも内部の管理のほうに重きを置いて事務に携わってまいりましたけれども、退任後は少しちょっと緩く働きながら、また一人の市民としてこちら秋葉区に関わっていきたいなと思っておりますので、どうかよろしく願います。今までありがとうございました。

(中島会長)

古侯副区長、長い間大変お疲れさまでした。ありがとうございました。お世話になりました。

はい。

(副区長)

すみません。裏面もございまして。失礼いたしました。

秋葉消防署の小林署長が消防局の本局のほうへ参りまして、澤口所長が着任しますし、山内さんがまた異動となります。同様に高橋さんも予防課のほうへ異動ということで、それぞれ高橋予防課長、澁谷消防課長ということになります。それから、地域総務課の事務局のほうですけれども、鈴木千佳子主査が、同じ地域総務課の中ですけれども、地域振興担当ということでサンジョウさんの後任に当たります。よろしく願います。すみ

ませんでした。

それでは、退任する上から順番に、鈴木補佐からお願いします。

(地域総務課長補佐 (鈴木))

地域総務課の鈴木利樹です。生まれも育ちも秋葉区です。役所人生の最後をふるさとのまちづくり、人づくりに携わることができて、ああ、うれしかったなというふうに感じています。私の好きなことの一つに、人と出会うということがあるんですけど、気が合う人、話が合う人、そして私の知らないことを教えてくれるという人とお会いするのが何よりも好物です。そんな意味でこの自治協議会の委員の皆さんと顔見知りになれたこと、そしてお話をすることもできましたし、皆さんが考えるまちづくり、地域づくりの、少しばかりでしたけれども、お手伝いできたということをとてもうれしく思っています。

私この後もこの秋葉区に住まいをしますので、町なかで見かけたら挨拶していただくとうれしいなというふうに思います。大変お世話になりました。ありがとうございます。

(中島会長)

鈴木利樹課長補佐、本当にお疲れさまでした。お世話になりました。ありがとうございます。

(区民生活課長)

区民生活課の高橋です。私は、区民生活課3年お世話になりました。このたび新年度から副区長兼地域総務課長ということで拝命しているところなんですけども、非常に重責ということをひしひしと感じながら、力不足ではあるかと思えますけれども、一生懸命務めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(中島会長)

ありがとうございます。高橋穰次期秋葉区副区長、地域総務課長、よろしく願いいたします。お世話になります。

以上でしょうか。あっ、すみません。ごめんなさい。

(健康福祉課長)

健康福祉課の相馬です。私も旧新津市に保健師として採用されまして、合併までの19年間を新津市で、合併後の19年間は新津市を離れまして、東区、中央区保健所、昨年秋葉区のほうに戻ってきたという、そういった流れです。保健師の実習を当時は1か月以上自治体で実習をさせていただくんですが、旧小須戸町で私実習をしております、人生で一番最初保健師として健康のお話をさせていただいたのが鎌倉の老人クラブでした。もう退職する38年たっても、そのときのことが本当に鮮明に思い出されまして、私にと

ってはこの秋葉区が保健師としての私を育ててくださった、本当に思い入れのすごく強い地域です。

本当にあつという間でもう60となり定年となりますが、また私自身も秋葉区に住んでおりますので、引き続きまた皆様とお会いする機会もあるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。大変お世話になりました。ありがとうございました。

(小須戸出張所長)

小須戸出張所の牛腸でございます。自治協の皆さんとは、区民生活課から数えて7年間お世話になりました。自治協での区の今と、それから秋葉区の未来、熱心な議論を拝聴いたしまして、私自身成長させていただきました。3月には小須戸出張所を離れるわけでありまして、陰ながら自治協の発展と皆様のご多幸をお祈りいたしております。4月からは福祉関係の事業所で手伝ってもらえないかというようなお声がけもいただいているんですけども、どうも自分自身で不安がいっぱいいるんですけども、大丈夫、大丈夫というふうに自分自身で言い聞かせながら歩いていこうというふうに思っております。

長い間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

(農業委員会事務局秋葉区事務所長)

農業委員会秋葉区事務所の嶋倉と申します。私ももともと新津市役所の出身で、この建物ができた年に入庁しています。ですんで、この建物と一緒に36年務めさせていただきました。その間新潟市との合併で外に出ていることあるんですが、一番覚えているのがやっと秋葉区ということで戻ってきたときに安心安全係長ということで、その年の3月に3.11がありまして、その年の7月ですか、新潟・福島豪雨災害ということで、私が災害を連れてきたのかなと思ってえらく大変な思いをしたことがあります。その頃から、今防災の関係ってかなり進んでいるんだというふうに思っています。

私も最後ここで終わることができて、大変幸せに思っています。建物の形もちょっと変わりましたが、今までいろいろお世話になりました。ありがとうございました。感謝申し上げます。失礼します。

(秋葉下水道分室長)

改めまして、秋葉下水道分室の奥平です。何か言葉も何も用意してこなかったんですけども、今ここでこうして話している思い出されるのは、ちょうど4年前、令和2年にこちらのほうへ着任して、課長補佐という役職で来たんですけども、同じように第1回の自治協議会で挨拶をさせてもらったんですけど、緊張して口の中が本当にからっからになりながら、かみながら挨拶をしたのを今ちょっと思い出しております。今もちょっと

緊張しているんですけども。こういった活動が市役所の中であるんだなというのは何となくは分かっていたんですけども、恥ずかしながら私ずっと下水道の現場、現場で来ていまして、管の中に潜ったりとか、いわゆるモグラ生活みたいなことをして、いきなりこういった席に立ったときに、あっ、こういう方たちの意見が聞ける場があるんだなと非常に衝撃を受けました。行政に携わる者としては非常にお恥ずかしい限りなんですけども。4年間皆さんとこういったお話をする、聞く機会がありまして、非常に私自身役所の人間というよりは一人の人間として大分幅が広がったのかなというふうに思っております。今度また下水道管理センターの施設整備課ということで、13年ぶりかな、あの場所に戻っていくんですけども、4年間皆さんと関わらせていただいたことを糧に、また仕事のほうを邁進していきたいと思っております。

どうも4年間ありがとうございました。

(新津地区公民館長)

新津地区公民館の小林でございます。私も新津市採用でございまして、合併して政令市になってからは秋葉区を離れて、ずっと周りを転々としていたんですけども、2年前に退職をして、最後新津地区公民館に来られたというのは大変幸せに思っております。皆さんご承知のとおり、公民館は教育委員会の所属なんですけれども、私個人としてはかなりもう区に密着した教育委員会の所属なのではないかと思っております。これからはそういったスタンスで皆様とお付き合いができることと期待をしております。

どうもありがとうございました。

(秋葉消防署長)

秋葉消防署長の小林でございます。令和5年4月に着任したばかりで、1年という短い間ではございましたが、この4月から消防局次長ということで異動となりました。この1年の短い間でございましたが、皆様から消防行政にご理解、ご協力賜りまして、誠にありがとうございました。御礼申し上げます。後任には私と同年の澤口が着任する予定となっております。私と一緒に救助隊生活を送って、最後は救命士をやったのかな、管理職となって着任いたします。皆様のご意見等々、私よりも耳傾けてくれるかと思っておりますので、どうぞ消防署のほうに来たときには立ち寄っていただきたいと思っております。

短い間でございましたが、誠にありがとうございました。お世話になりました。

((事務局) 地域総務課主査 (鈴木))

事務局の鈴木です。私は、令和4年の4月から自治協担当ということで、皆さんと一緒にやってきました。本当に2年ということなんですけれども、すごく濃い……委員の皆様



さんと過ごしたのがすごく濃くて……本当にずっとやってきた仲間のような感じがして  
いました。本当にありがとうございました。まだ地域総務課にいます。これからもコミ協  
の皆さんとか自治会の皆さんと会うこともあると思いますので、またどうぞよろしくお  
願いいたします。ありがとうございました。

(副区長)

あと、教育センター所長の牧野所長ですけれども、今日欠席しておりますけれども、皆  
さんとは教育懇談会、コミュニティスクールの推進であるとか、あるいは部活の地域移  
行の学習会など、大変お世話になる機会があり、感謝を申し上げますということでメッ  
セージいただいておりますので、お伝えします。

ありがとうございました。

(中島会長)

本当に長い間大変お世話になりました。お疲れさまでございました。ありがとうございました。

本当に顔ぶれが新たになって、第9期1年目が終わって、ちょっと感慨がひとしおで  
ございますけれども、区長からぜひ一言お願いをいたします。

(区 長)

令和5年度の自治協議会、今日は最後ということで締め挨拶を少しさせていただきます。

まず、何よりも1年間お務めいただきまして、大変ありがとうございました。激動の一  
年だったんじゃないかなと。ちょっと振り返りをさせていただくと、1年前、ちまたはW  
BCでにぎやかなときに、ひな飾りがサミットで飾られるんじゃないかという話の中で  
中島会長が就任をいただきました。すぐに新型コロナウイルスが5類に移りまして、様々  
なイベントや行事が解禁をされて、ちょうどコミュニティ協議会の総会なども順次対面  
で開かれるようになりました。その中で、6月の後半から未来ビジョンの準備が急加速  
をして、7月の頭から第1回が山の手コミ協さんで行われたということです。区のほう  
では、移住コンシェルジュの相談窓口が開設をされ、小須戸、新津と祭りも例年並みに開  
き、秋以降のイベントも順次再開をされていく状況の中で、全33回の未来ビジョンのワ  
ークショップが12月の10日に最後を迎えて、いよいよ来年に向けてという機運が上がっ  
てきたところで、1月1日、もう3か月近くになりますけれども、地震が起きてしまった  
という言い方が率直なところかと思います。秋葉区においても、全壊が1件、半壊が9  
件、一部損壊が約490件、まだ若干増えるのかもしれませんが、それでも8区の中  
では3番目に少ない被害数、ただ被災された方はいらっしゃる中で、少し新年会中止、延

期もありましたけれども、秋葉っ子ふゆまつりをはじめ数々の行事、イベントが順次行われて今に至っているんだなというふうに思っております。

そんな中で、また新しい自治協議会が4月から始まりますけれども、区としましては今年度に出てきた様々な課題、2つに絞って取組を強化しようと思っております。1つは、災害に強い秋葉区づくりです。第2部会でも昨年から取り組んでいただいておりますけれども、もともと今年は新潟地震から60年、中越地震から20年ということで、6月16日の新潟地震の発生、日曜日になりますけれども、全区一斉の災害対応訓練を計画しておりましたので、今はそれに向けてプログラムをつくっておりますし、それだけに限らず、先ほど五十嵐委員からもありましたけれども、日頃の備えをどう組み立てていくのか、これは区だけではやはりできませんので、コミ協、自治協、自治会の皆様を含め、区民挙げて災害に強い地域にしていきたいというふうに考えております。

もう一点は、未来ビジョンでもご指摘をされた、2つあったんですけれども、地域交通については既に第2部会さんが本当に熱心に取り組んでいただいたおかげで、金津線の見直しもされました。下新線についても、新関コミュニティさんが路線等を見直ししていただいたので、もう春から開始ができますし、区としましてはワンコインバスを夏をめどに開催をさせていただいて、中学、高校、大学生が気軽にバス交通に乗れるようにという取組がスタートいたしますし、もう一点はやはり子供の居場所を何とか実現をしたいということで、区だけではなく、ぜひ自治協議会のできれば部会の皆様からご参加いただいて、特に子供たちからご意見のあった小合、金津、そして地域交流センター、そして旧第二幼稚園のところもそうですね、各地で出ている子供の居場所について、皆様方と忌憚なく意見交換をさせていただいて、令和6年度にバトンを渡していきたいと思っております。

最後になりますけれども、本当に1年間お務めいただき、ありがとうございました。そして、何よりこういう忌憚のない意見交換ができる場をつくっていただいた委員の皆様方に感謝を申し上げて、御礼の挨拶とさせていただきます。大変1年間お疲れさまでした。ありがとうございました。

(中島会長)

長崎区長、ありがとうございました。

私も一言。本当に今期をもって卒業される委員の方、そして退職、異動される職員の皆さん、大変お疲れさまでございました。お世話になりました。本当にせっかくのご縁ですので、今後ぜひ秋葉区自治協議会の応援団として私たちの活動を見守って、時に支えていただければ幸いに存じます。

今区長から話があったとおり、今年から金子前会長の後を受けまして、仰せつかりまして会長職、不慣れで、本当に行き届かずに皆様にはご迷惑をおかけいたしました。それでも、本当にみんないい人たちで励まされ、支えられ、どうにか1年を務めることができました。特に大貫さんに私助けられてどうにかやってこれて、本当にありがとうございました。感謝しております。自治協は人と人をつなぐハブ、ただ本当に委員の皆様方素晴らしい、活躍されていて、活動を熱心に取り組まれているんだけれども、認知度低いなというところが、これ実は私の来年度の課題になるのかなって思います。市の市民生活課が新潟市全体の調査をして、市民の3割なんだそうです、自治協議会を知っているって。私も何か、私秋葉区自治協議会の会長なんですよって言うと、何かイメージされるのが自治会の連合会の親分みたいな、ちょっと違うんですね。ちょっとそういった辺りでせっかくすばらしい活動に熱心に取り組んでおられるのに。

なので、来年度私自身の課題、私自身の点検報告ということでいえば、もっと発信力を高めて知っていただいて、そして私も仲間に入りたいなって思ってくれるような、そういう秋葉区自治協議会に微力ながらしていきたいなというふうに思っております。本当私自身、だからそのためにも、やっぱりもっこの秋葉区自治協の活動に喜びとか楽しみを覚えながら、感じながら、もう自分らしさを意識して取り組んでいきたいと思っております。そんなことで来年度ももう1年ございます。引き続き皆様のご支援、ご協力よろしく願いいたします。どうも1年ありがとうございました。

以上となります。来月自治協の挨拶まだ決まっておられませんけれども、順番でいきますと2部会になります。2部会の方をお願いしてよろしいでしょうか。この後の部会で決めていただければと思います。よろしく願いいたします。

それでは、進行を事務局にお返しします。